色気のある空間

変化の重なる事で出来る「厚み」

指導教員　吉松秀樹教授　印

9AEB2207　相良　和彰

1. 色気

人や絵に感じる色気に興味を持った。色気というのは気配であり、振り返るなど人の行動(生きている間すべて)(fig.2) の間に感じ取れるものであるのではないか？人の行動は“小さな変化”が何枚も重なったものであり (fig.1)、その重なりで人の気配に「厚み」と「奥行き」を作り出しているのではないかと考える。つまり人の行動の間に色気を感じ取っているのではなく、行動の間に人の気配の「厚み」(強調された存在) を感じとっているのではないか？このように“小さな変化”が重なり「厚み」と「奥行き」を感じとれるものが都市にもあるのではないか？

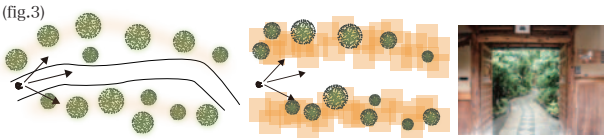
(fig.1) 小さな変化の重なり

(fig.2) 止っていても呼吸などにより気配は感じる

2. 庭の中の小さな変化

日本人は小さな変化を重ね庭を作り出した。料亭で、食べるまでに飛び石や庭木で小さな変化をつけながら期待を膨らませる空間である。統一された庭で小さな変化を見つける事で人は庭に「厚み」や「奥行き」を感じる。

(fig.3)



(fig.3) 庭の「厚み」

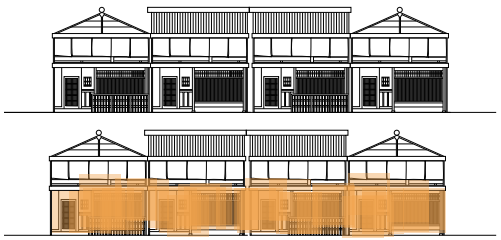
3. 都市の中の小さな変化

京都・祇園のように日本らしい統一された街並に小さな変化を感じた。祇園のような町家は建築コードにより決まった住居が建ち並び、(fig.6,7,8) 家屋の壁面が隣家の壁面と接して連続した一続きの面を作り出している。敷地の境界を示すものは縁石なので曖昧になっており、道と家屋の間にまた別の空間を作り出している。犬矢来などが設けられればこの空間は「厚み」を増す。小さな変化(個々の個性) が重なることにより、統一された街並に「厚み」と「奥行き」を感じる。(fig.4)

(fig.6) アルコーブ型の入り口

(fig.7) 犬矢来

(fig.8) 二階のすだれ



(fig.4) 祇園の「厚み」

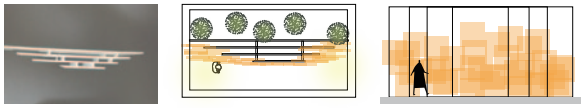
統一されたものに小さな変化があるとその変化が見えにくくなる。そのため変化を見つけるときは予期しない、ふとした状況で見つける事になる。小さな変化を見つけて感じる「厚み」と「奥行き」を色気＝強調された存在と定義する。

4.「厚み」のある住宅

小さな変化を重ね、空間に「厚み」と「奥行き」を作り出す。

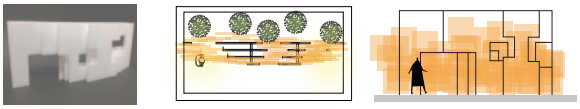
4-1 モデル

平面の変化量を模型化し、それを壁として建築を作る。また薄い部材をつかい、変化を小さくする。(fig.5)



(fig.5) 変化量の模型化

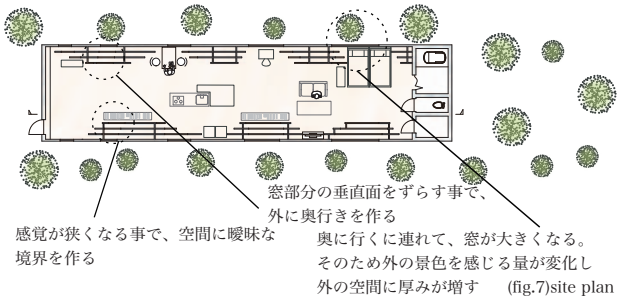
窓の部分をずらしていく事で、外の空間に「厚み」を感じさせる (fig.6)



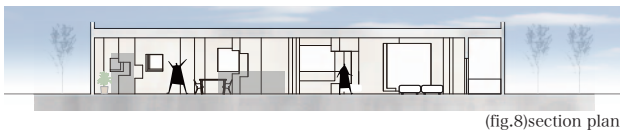
(fig.6) 窓のずらし

4-2　提案

モデルから住宅を設計する。一繋がりのワンルームに、小さな変化をつける事で、空間に厚みを作る



(fig.7)site plan



(fig.8)section plan